

# 筋生検の最新の病理所見

Here is where your presentation begins

20XX.XX.XX

# CONTENTS

---

1. 筋線維の変性と壊死

2. 細胞浸潤

3. 補体の沈着

4. 筋線維の再生

# 筋線維の変性と壊死

Part 01

自己免疫反応による筋線維の変性と壊死：筋生検では、皮膚筋炎患者の筋線維の変性と壊死が見られます。これは、筋肉組織が自己免疫反応によって攻撃されるためです。筋線維の変性は、筋線維内の線維芽細胞の増殖や間質細胞の浸潤によって引き起こされる可能性があります。一方、筋線維の壊死は、細胞内の免疫反応によるものであり、壊死した筋線維は再生過程に入ることもあります。



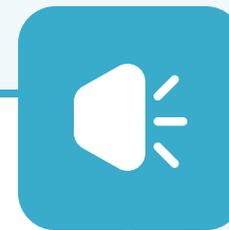
● ● ● 周縁性壊死 (perifascicular necrosis) : 筋線維の周縁部での壊死は、筋生検で最も特徴的な病理所見の一つです。周縁性壊死は、皮膚筋炎に特有の所見であり、筋束の辺縁部に位置する筋線維が壊死します。この特徴的な所見は、皮膚筋炎の診断に重要な役割を果たします。





筋束内の病理的变化：筋生検では、筋束内にもさまざまな病理的变化が観察されます。これには、筋線維の変性、脱髄、線維芽細胞の浸潤などが含まれます。これらの変化は、筋生検によって病理像を評価する際に重要な情報源となります。

“



# 細胞浸潤

Part 02



リンパ球の浸潤：筋束周囲や筋内鞘にリンパ球の浸潤が見られます。特にCD4陽性T細胞が浸潤し、筋線維の周囲に炎症を引き起こします。浸潤してくるリンパ球には、Tリンパ球、Bリンパ球、マクロファージなどが含まれます。この炎症反応は、筋生検における重要な病理所見の一つです。

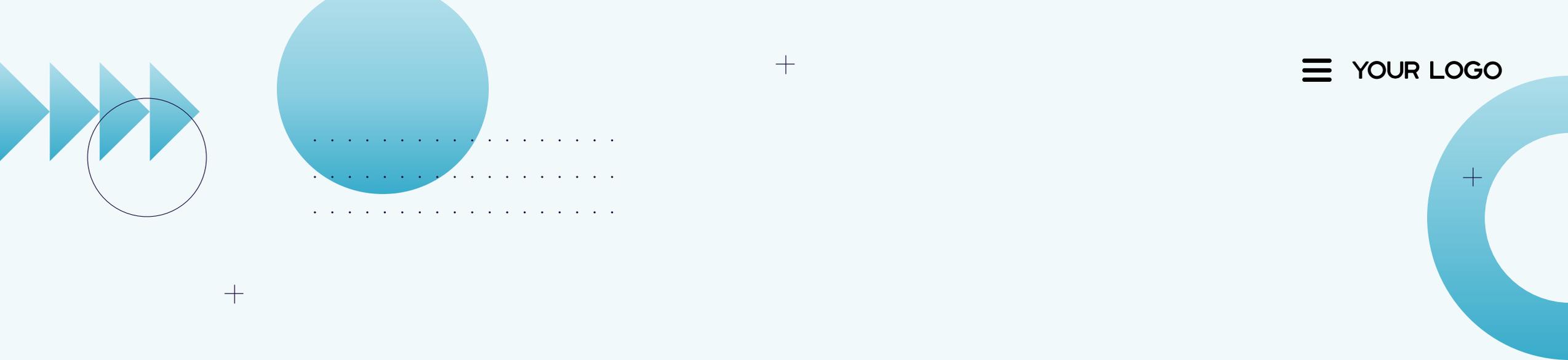


● ● ● 炎症細胞の活性化：皮膚筋炎の筋生検では、炎症細胞が活性化しており、サイトカインや炎症性物質の産生が増加していることが観察されます。この活性化した炎症細胞によって、筋線維に炎症が生じ、筋力低下や筋肉の機能障害が引き起こされます。



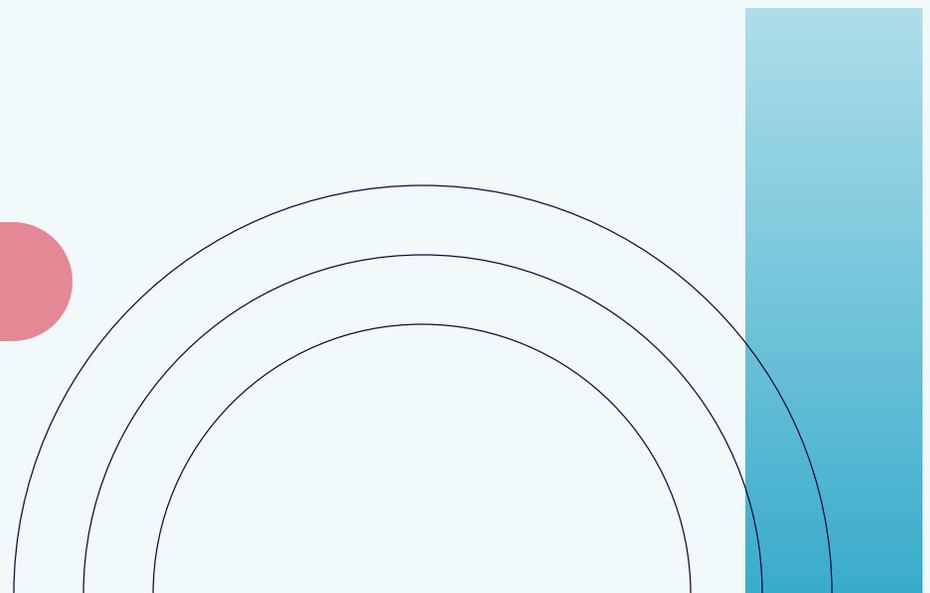
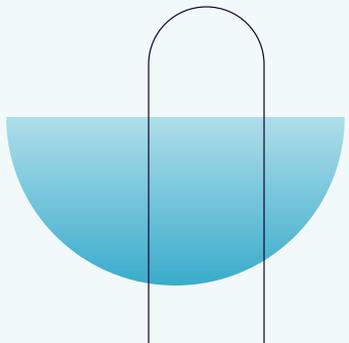
01





# 補体の沈着

Part 03



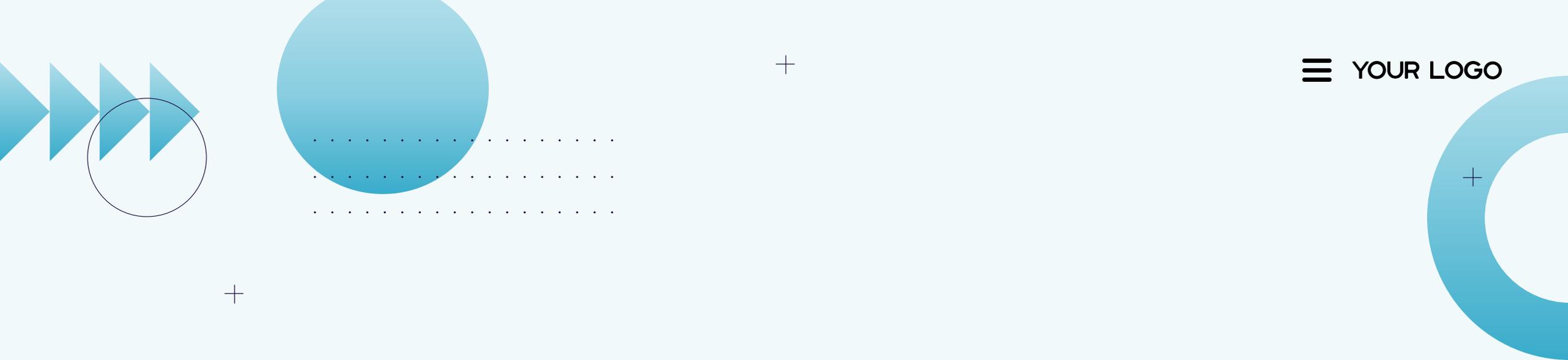


免疫複合体の形成：筋生検では、皮膚筋炎患者の筋血管内皮細胞に免疫複合体が沈着していることが観察されます。これは、免疫反応に関与する因子が関与している可能性があります。免疫複合体による補体系の活性化は、血管障害を引き起こし、病理像を構成する重要な要素となります。

01

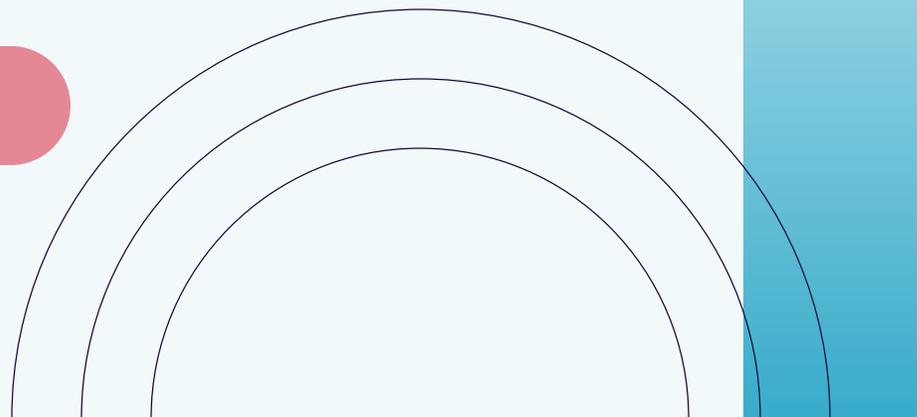
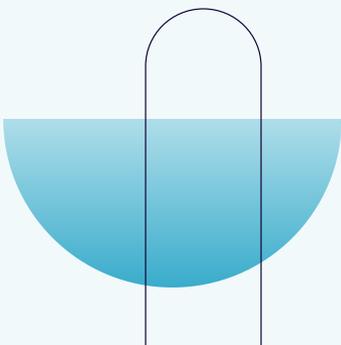
● ● ● 血管炎の形成：筋生検では、皮膚筋炎患者の筋血管に炎症性細胞の浸潤や血管内皮細胞の障害が見られます。これにより、血管炎が形成され、皮膚筋炎の病態を引き起こす要因となります。補体の沈着は、血管炎の発症や進行に関与する可能性があります。

01



# 筋線維の再生

Part 04





筋線維の再生過程：筋生検では、壊死した筋線維が再生過程に入り、新しい筋線維が形成されることが観察されます。筋線維の再生過程は、筋肉組織が自己免疫反応から回復するための重要なプロセスとなります。この再生過程も筋生検の病理所見の一部として評価されます。



01

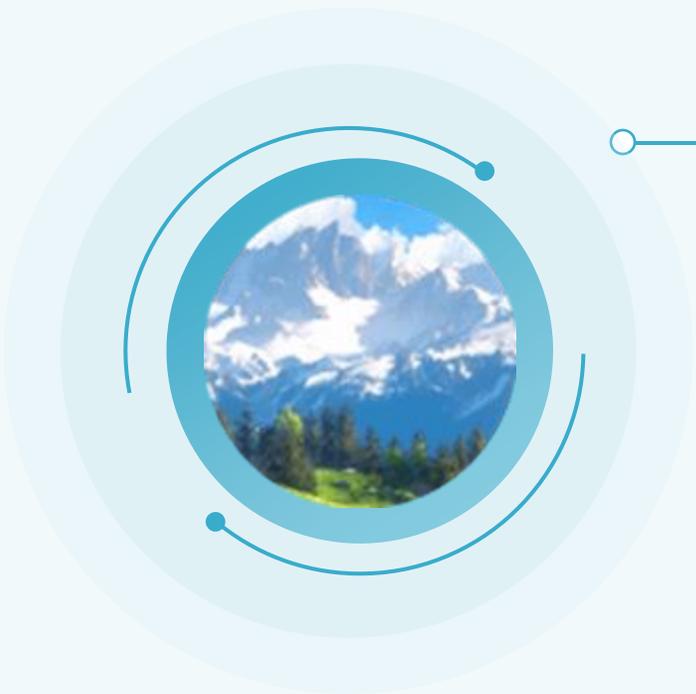


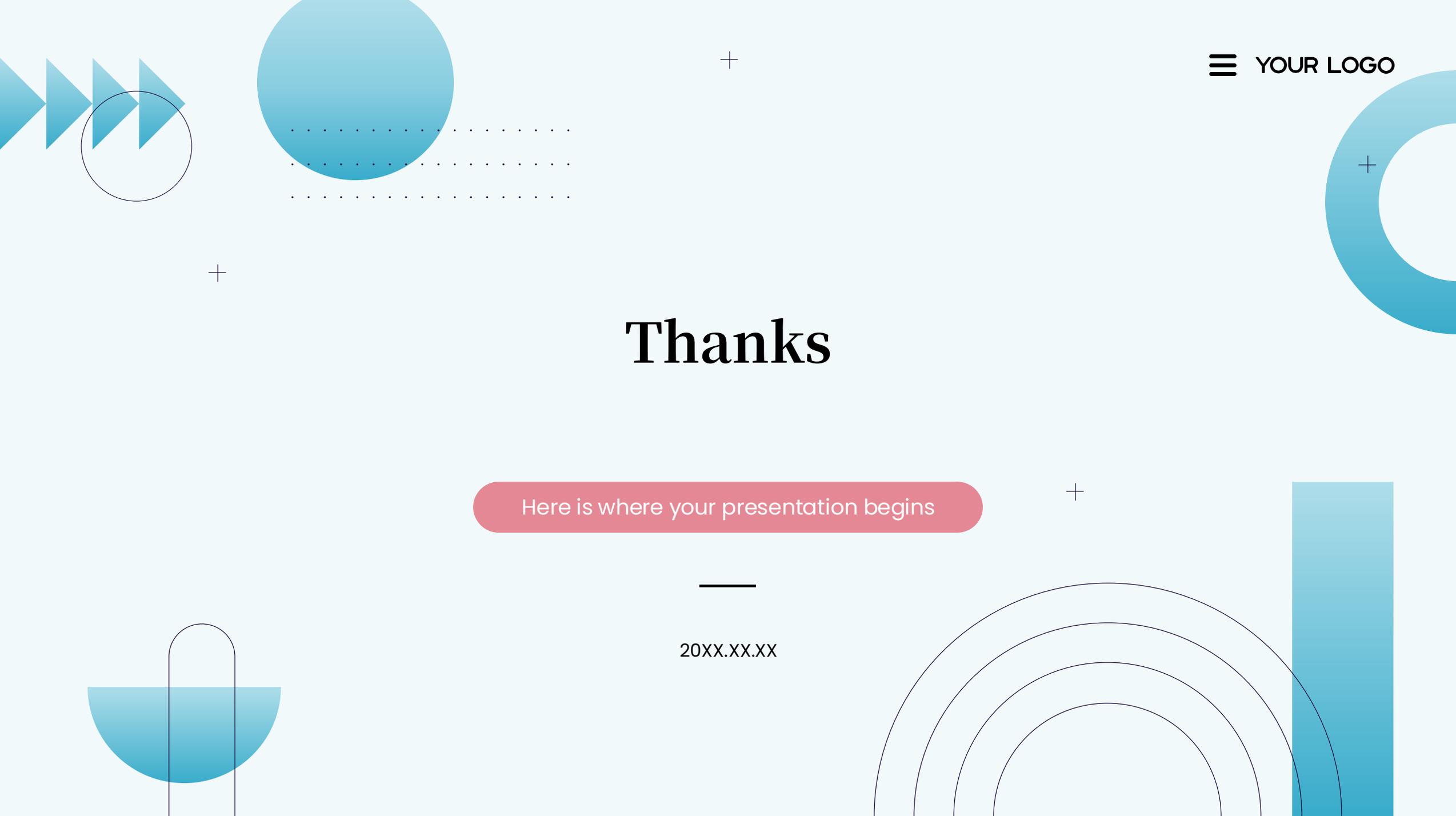
再生筋線維の形成：壊死した筋線維の再生によって、新しい筋線維が形成されます。これは、線維芽細胞や間質細胞が増殖し、再生プロセスを促進することによって起こります。再生筋線維は、徐々に機能を回復させ、筋力の改善に寄与します。





以上が、皮膚筋炎の筋生検における最新の病理所見です。これらの病理所見は、皮膚筋炎の病態理解や診断において重要な情報源となります。また、これに基づいて治療戦略を立てることも可能です。





# Thanks

Here is where your presentation begins

—  
20XX.XX.XX